

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（集計結果）

公表：令和 4年 5月 20日

サンクスラボ・アフタースクール諫早

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	0	4	2	実際の利用人数や活動内容によっては訓練室等のスペースが狭く感じることがあるので、スペースを有効活用できるよう配慮する。
	2	職員の配置数は適切である	6	0	0	配置基準より多い人数の職員を配置しているが、見守りや支援の必要性の高い児童が多く利用する日や、送迎の時間が重なる場合など、不足感がある日も出てくるため、人材確保を含めて継続的に実施していく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	5	0	現状、特に問題は生じていないが、今後必要に応じて対応していく。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6	0	0	継続的に実施を図る。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	0	継続的に実施を図る。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	2	0	今年度より、ホームページでの公開を行うことを検討している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	6	0	第三者による外部評価については現状行っていないため、今後の検討課題とする。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0	0	外部や会社による社内研修プログラムの受講を推進している。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	0	アセスメントの頻度を上げて、利用者の状態や保護者のニーズの変化把握に務め、個別支援計画書作成に活かしていくことを検討する。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	0	0	今後も継続して実施する。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	0	今後も継続して実施する。

適切な支援の提供	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	0	今後も継続して実施する。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	0	0	今後も継続して実施する。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	0	今後も継続して実施する。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	0	今後も継続して実施する。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0	0	今後も継続して実施する。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	0	今後も継続して実施する。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	0	0	今後も継続して実施する。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	6	0	0	今後も継続して実施する。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	0	今後も継続して実施する。
21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	6	0	0	今後も継続して実施する。	

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	6	0	今後医療的ケアが必要な子どもを受け入れる際には関係機関との連絡体制を整えていく必要があるため、必要に応じ対策を検討する。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0	3	0	十分行われているとはいえないため、情報共有の方法について今後検討する。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6	0	0	今後実施を検討する。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0	5	1	・コロナ禍のためできていない 今後、専門機関と連携するように努める。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	5	1	・コロナ禍のためできていない 保護者のニーズも汲み取ったうえで、今後の検討とする。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	3	3	・コロナ禍のためできていない 今後、協議会への参加を推進していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	0	今後も継続して実施する。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	3	2	保護者のニーズも汲み取ったうえで、今後の検討とする。
保	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	0	今後も継続して実施する。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	0	今後も継続して実施する。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	4	2	保護者のニーズも汲み取ったうえで、今後の検討とする。

護者への説明責任等	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	0	今後も継続して実施する。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	2	0	今後も継続して実施する。
	35	個人情報に十分注意している	6	0	0	今後も継続して実施する。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	0	今後も継続して実施する。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	3	3	・コロナ禍のためできていない 社会的情勢を判断しながら、実施を検討する。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	0	0	今後も継続して実施する。モニタリング等の機会を利用して説明を行っていくよう検討する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	0	今後も継続して実施する。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	0	今後、社内の報告体制の構築や外部の研修の受講などにより虐待防止対応を推進していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	0	0	突発的に身体拘束の必要性が生じることも想定し、虐待防止対応を組織的に構築するとともに、社員向け研修を行っていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	0	0	今後も継続して実施する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	0	今後も継続して実施し、内容を充実させるように努める。